
作者が80%崩壊して何かに憑依された時に書いた話

赤神幽霊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者が80%崩壊して何かに憑依された時に書いた話

【Nコード】

N2259C

【作者名】

赤神幽霊

【あらすじ】

注意：またもタイトルが執筆中の精神状態となっておりです。内容とは一切関係がありません。また、想像することが苦手な方は、あまりしっくりこないかもしれません。得意でもあやしいですけど、まあ見ればわかります。以下あらすじ：想像してください。あなたは自分と、あなたに縁のあるものを失っていきます。

(前書き)

ジャンルがはっきり言ってよくわかりません。自分的に怖いと思っ
てしまっているのがホラーということにしてみました……。作者
はこれを書いている今もまだ壊れています。
では、想像の世界へ。

想像してください。

あなたは今から、何かを失っていきます。もしかしたら、初めから無いのが当たり前だった方もいらっしゃるでしょう。でも、大丈夫。この文章を読むことが出来る以上、あなたは必ず何かを失うことができるでしょう。安心して下さい。体に痛みはありませんので。

それは、身体機能であつたり、体であつたり、義手や義足といったものであつたり、あなたにとって『そこに存在してあたりまえの人や物』であつたりと、様々です。

想像してください。

まず、あなたは足を失います。

もう二度とあなたは“自分の足”で行きたい所へ、会いたい人の元へ歩く、或いは走れなくなりました。スポーツ選手の方は、選手生命を失ったかもしれません。

想像してください。

次に、あなたは両腕を失います。

もう二度とあなたは“自分の手”で物に触れることができません。大切な人をその腕で抱きしめてあげることも、その手で何かを生み出すことができません。これで、多くの人は仕事はおろか、日常生活も送れないでしょう。

想像してください。

今度は二つです。あなたは鼻と耳を失います。

もう二度とあなたは“自分の鼻”で好きな人、或いは物の匂いを嗅ぐことができません。おいしそうな食べ物を目の前にしても、その匂いがわからなくなります。

同時に嫌な臭いもわからなくなるので、その点はよかったですね。そして、もう二度とあなたは“自分の耳”で音を聞くことができ

ません。大好きな音楽も、誰かの声も、自分を呼ぶ声ですら、あなたは聞き取ることができません。

しかし、これでもう騒音や悪口に悩む必要もありません。その点だけは素晴らしいですね。

さあ、次にいきましようか。まだまだ続きます。

想像してください。

あなたは目を失います。

もう二度とあなたは“自分の目”であなたのいる世界を見ることができせん。あなたの家族、友人、恋人、知人、好きな絵、好きな景色、好きな色、好きな動物……。もう、あなたの視界には何も映りません。そう、あるのは真っ暗な、闇です。

さて、今の状況はおそらくこうなっているでしょう。

想像してください。

あなたは今、自分で動くことができません。（転がることはできるかもしれませんが）。

あなたは今、音も匂いも無い、光が差し込むことのない真っ暗な闇の中にいます。

口と喉だけを残して、ここからはあなたの体を離れます。ああ、二つほど忘れていました。

一つは、体が大きな損壊を受けた場合、まともに話せなくなったりとといった事態には、今回は見舞われていないものとお考えください。

そしてもう一つ、口と喉以外に、脳と記憶も残してあります。ふふふ……。

さあ、参りましょう。

想像してください。

あなたは知人を失います。これはまだショックが少ないかもしれませんがね。

しかし、確実にあなたの呼びかけに答えるものは減少します。

想像してください。

あなたは“人間と、自分の体に残っているもの以外で大切なものを失います。例をいくつか挙げてみましょう。ペットとして可愛がっていた動物や、いつも飽きずに眺めていた景色、大切な人からもらった贈り物、思い出の品、誰かに寄せていた恋心……。そういつた、二度と手に入らないようなものを失うのです。

さて、終りがだんだん近づいて参りました。疲れてきているかもしれませんが、がんばりましょう。想像してください。

あなたは友人を失います。もちろん親友も含みますよ。

もう二度とあなたは彼らと言葉を交わすことはありません。あなたと一緒に苦楽を共にした彼らを、永久に失うのです。あなたの名前を親しげに呼んでくれるものは、これでかなり減少したことです。よう。

さて、残すところ後わずかです。

これは甲乙つけがたいと私は考えておりますので、一度にいきま

す。想像してください。

あなたは家族を、恋人を失います。

もう二度と、どんなに声を張り上げてあなたへの想いは届きません。どんなにもがいても彼らは帰ってきません。

想像してください。

あなたがうつとうしいと思っている、或いはあなたと仲がよい親も、もういません。

一生をかけて幸せにする、生涯護る、ずっとお互い支えあって生きていくなどと誓った相手も、もういません。

とうとうあなたの周りから、あなたの世界を生きていた“みんな”が誰もいなくなってしまうました。

いよいよ大詰めです。

再び、あなたの体へと舞い戻ります。

というより、その他に失うものがもう何も無くはありませんか？
ある、という方はきつと幸せです。

想像してください。

あなたは口と喉を失います。

もう二度と“自分の喉と口”からあなたの声は発せられず、未だ
出会わぬ誰かに届くことはありません。

あなたは、その存在を他者に気づかれなくなっていきます。

想像してください。

あなたは残った胴体と頭部を失います。脳も失ってしまいました。
記憶はまだあります。

なんとということでしょうか。とうとうあなたの姿は消えてしま
いました。

もう二度とあなたは誰の目に留まることもありません。もがくこ
ともできません。

あなたにできるのは、何かが自分にあったという記憶を辿って、
それに浸ることしかできません。その記憶からは、大事な何かに対
する想いが抜け落ちているのにもかかわらず、です。それでもあ
なたにはそれしかできません。

想像してください。

では、次で終りにしましょう。

あなたは記憶を失います。

もう二度と、過去の思い出に浸ることができません。後ろを振り
返ることができなくなりました。けれど、嫌な思い出ともサヨナラ
です。これは大きなメリットでしょう。

さあさあ、あなたは何もかもを失いました。

想像してください。

実際に何かを失ってしまふ、その時を。

想像してください。

どうすれば失わずに済むのかを。

ふう、ようやく終わりました。お疲れ様でした。これでこのお話は終わりです。

……。
おおっと、いけません。待ってください。まだ終わってはいないのです。

私としたことが、“あるもの”を完全に失念していました。
こんどこそ最後です。

想像してください。

あなたは、命を失います……………。

どうでしょうか？ 命を失っては、そもそも想像することなんてできません。

果たして、あなたはどんな想像をしたでしょうか……………。
……………。

(後書き)

こういうのは有りなのだろうかと疑問に思いつつも投稿してみました。時間の無駄だったと思われる方、申し訳ないです。ネタが被っていないかが心配です(汗

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2259c/>

作者が80%崩壊して何かに憑依された時に書いた話

2010年10月8日15時15分発行